



Title	否定疑問文「Vはしないか」における第二類否定疑問としての機能
Author(s)	山倉, 佐恵子
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2024, 2023, p. 99-106
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97346
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

否定疑問文「Vはしないか」における第二類否定疑問としての機能

山倉佐恵子

1. はじめに

本論文は動詞連用形に助詞「は」が接続する形式「Vはしないか」が否定疑問文の体系にどのように位置するのかを明らかにすることを目的とする。否定疑問文は田野村(1988)により発見や驚きの感情を表す第一類疑問文、推論を表す第二類疑問文、命題否定を表す第三類疑問文という三つの分類が存在することが示されている。先行研究では「のではないか」「ではないか」などについて研究が進められてきたが、動詞連用形に「は」が接続する形「Vはしないか」の位置づけについては議論の余地が残る。そのため本論文では「Vはしないか」が第二類疑問文に含まれるとし、判断の「傾き」と「傾き」がある場合の疑問文が情報提供文に近づくという性質について分析を行う。具体的には宮崎(2004)の情報提供文の 1,思考動詞引用文中の生起と 2,モダリティの副詞(タブン)との共起の可否、3,話し手の想定と現実状況とのギャップの3つの観点から「Vはしないか」が通常の命題否定ではなく推論や判断を含む第二類否定疑問文として特徴を有していることを確認する。

2. 先行研究

「Vはしないか」について述べるにあたって、まず先行研究における否定疑問文の分類に概観していききたい。先ほども述べたようにまず否定疑問文は田野村(1988)により大きく3種に分類されている。その分類を確認したのち、別の観点から否定疑問文の分類を行った安達(1996)を見ていきたい。安達(1996)は否定疑問文には判断の「傾き」が含まれるということを描き指し示しており、否定疑問文の特徴を話者の存在を考慮し分析している。そして最後に両者の分類を体系的に整理し発展させた宮崎(2004)までを確認していく。

2.1 否定疑問文の分類 田野村(1988)

田野村(1988)は否定疑問文意味や統語上の性質から3種類に分類することが可能だと明らかにした。まず一類が「発見や驚きを表すもの」であり(1)のような例に代表される。二類が(2)の推論を表すもの、三類が(3)の「ない」が否定辞本来の性質を表すものである。

- (1)[一類] よう、山田じゃないか
何をする危ないじゃないか
- (2)[二類] (不審な様子から) どうもあの男犯人じゃないか?
(空模様を見て) 雨でも降るんじゃないか?
- (3)[三類] (1は素数でないことを教えられて) そうか。1は素数じゃないか。
(1ガ素数デナイト君ハ言ウガ得心デキナイ。) 本当に1は素数じゃないか?

それぞれは発話意図なども大きく異なることが近年の研究で明らかにされているが、今回は3分類が存在するというこのみにとどめておきたい。

2.2 否定疑問文の分類 —「傾き」の観点から— 安達(1996)

安達(1996)は否定疑問文の分析に「傾き」という概念を用いて、整理を行った。否定疑問文の意味には話者が事態に対する判断が影響しているとし、その判断を「傾き(bias)」と名付けている。

- (4) 本稿の関心が否定疑問文に向けられるのは、このような文(筆者注：否定疑問文)に典型的に話し手の「判断」が反映されることがあるからである。ここでの「判断」は話し手が肯定、否定のどちらの答えを予測しているかというかたちをとる。本稿ではこのような疑問化されている事態の肯否についての見込みのことを「傾き(bias)」と呼ぶことにしたい。(安達 1996:22)

安達の分類も3つに分けられ、1 否定命題を表すもの、2「傾き」をもつもの、3「傾き」をもたないものに大別される。

- (5) — 命題否定疑問文…本当に来ない？/まだ来ない？
 — 「傾き」を持たない否定疑問文…すみません、誰かいませんか？
 — 「傾き」を持つ否定疑問文…君、疲れてない？ (安達 1996:25)

命題否定疑問文は否定命題を表すもので、特に疑問詞などを含む文などがあげられている。「傾き」の有無について着目していきたい。まず「傾き」を持つ否定疑問文とは以下のような例である。

- (6) リカ「カンチ、私に黙ってることない?」
 永尾「—」(安達 1996:22)

リカという話し手は聞き手に「黙っていることがある」という判断をもった状態で質問をしている。このような例は確認要求の「のではないか」「だろう」と交代しても、意味に大きな変化がないという点も特徴として挙げられている。

- (6)' カンチ、私に黙ってることあるでしょ? (安達 1996:23)

「傾き」をもつ否定疑問文は確認要求のように、疑問の内容に話者はすでに何かしらの判断をしている上で、聞き手の反応を求めるような形式であることがうかがえる。

それに対して「傾き」をもたない否定疑問文とは以下のようなものとされる。

- (7) だが水口はさやかを無視するかのよう、るり子のそばに寄ってきた。
 「どう?わからないこと、ない?」
 「あ……ありません」
 水口はるり子に体をのつけるようにしてポジをのぞきこんだ。(安達 1996:24)

話者の判断とは読み手が文脈上から受け取る情報であるが、安達(1996)では「この例の特徴は、相手がわからない様子をしていたり、わからないという見込みが成り立っている場合とは考えにくい。」のように「傾き」がないとしている。疑問詞が共起する場合も、「傾き」はないとされるため以下のような場合なども含まれる。

- (8) 森沢「栗田さん!」
 栗田「あら、森沢さん」
 森沢「お願いがあるの。餃子に詳しい人を誰か知らないかしら?」
 栗田「餃子のことに詳しい人?」(安達 1996:25)

これらの田野村(1988)と安達(1996)の分類の対応関係が宮崎(2004)でまとめられている。

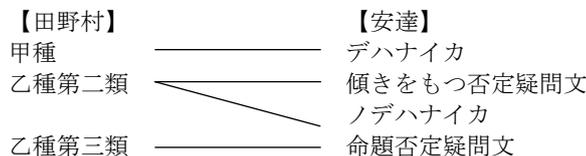


図1 両者の対応関係 宮崎(2004:5)より

この図で甲種とされているのが田野村(1988)の一類、乙種がそれぞれ二類・三類である。「傾き」をもつ否定疑問文は、推論を表す第二類疑問文と同様の性質をもつと考えられる。そのため当論文では「傾き」を持つ否定疑問文と第二類否定疑問文を同じものとして扱う。

2.3 情報提供文と情報要求文

宮崎(2004)の分析に移る前に、安達(1996)が傾きを持つ文は純粋な疑問文よりも平叙文に近くなるということを指摘したことについて考察していきたい。疑問文は情報を要求するが、平叙文は情報を提供するという性質を基本的にもっている。それぞれの性質を持つ文を情報要求文、情報提供文と定めて「傾き」をもつ否定疑問文との関りを述べた。

(9) 一般に、情報のやり取りに関係する文の類型として、平叙文(述べ立ての文)・疑問文(問い掛けの文)という区別がなされる。以下では、平叙文の情報を相手に与えようとする働き、疑問文の情報を相手から引き出そうとする働きに注目して、前者を「情報提供文」、後者を「情報要求文」と仮に呼ぶことにする。ただし、疑問文と情報要求文、平叙文と情報提供文は独立であると考えておく。情報提供文として働く疑問文も有り得るからである。(安達 1996)

例えば「のではないか」の場合は情報要求文の場合と情報提供文の場合の両方が確認される。感情形容詞は二人称、三人称では用いることができないが、疑問文の場合は可能である。「のではないか」は以下のように一人称以外で感情主体を表すことができる。

- (10) a. *彼は寂しい。
b. (君は) 寂しいんじゃない? (安達 1996:46)

これをまず情報要求文として働く例とする。そして情報要求文は思考動詞の内部で用いることができるという性質がある。(11)a など情報要求文の場合は「～と思う」の～に入ると不自然であるが、(11)b では自然である。

- (11) a. *彼は来るかと思う。
b. ケンプの舞台姿は悪くいえば、聴衆への媚であり、その温かさも厳しさの欠如から生じる表面的なものに過ぎなかったのではないかと思われる
(安達 1996:48)

このような疑問形式にはさまざまな分類があり、情報要求と情報提供の両方を行うことができる形式も存在することがわかる。宮崎はこの情報提供という性質違いから第二類否定疑問文をより細かく分類した。

2.4 否定疑問形式の分類 第二類否定疑問文の特徴 一宮崎(2004)

宮崎(2004)では第二類に属する否定疑問文に関して、統語的な面からより詳細な分類を行った。否定疑問文が名詞に接続した場合は、動詞・形容詞に接続した場合より情報提供文としての性質が強くなることを明らかにした。それは「のではないか」と同様のふるまいをするということを示しており、結果が以下のようにまとめられている。

動詞・形容詞述語の 否定疑問形式	広義名詞述語の否定疑問形式	
	名詞述語の否定疑問形式	ノデハナイカ
降っていないか (×) 寒くないか (×)	雨ではないか (○)	降っているのではないか (○) 寒いのではないか (○) 雨なのではないか (○)

○…思考動詞の引用文中の生起や「たぶん」との共起が可能

×…思考動詞の引用文中の生起や「たぶん」との共起が可能

*ノデハナイカは現実と話者の想定ギャップが不要

表1 宮崎(2004:7)より

情報提供文かどうかは次の3点の制約の有無によって判断された。1点目が、思考動詞補文中の生起、2点目がモダリティの副詞(たぶん)との共起の可否、3点目が話し手の想定と現実状況とのギャップ、である。思考動詞補文中の生起とは、「～と考える」「～と思う」などの引用説の中に当該の疑問文が入れるかどうかということを目指す。2点目のモダリティ副詞との共起は、「たぶん」「ひょっとすると」のような推論や蓋然性などを表す副詞と共起できるかどうかという内容である。

- (12) a. 雨が降っているんじゃないかと思う。/外は寒いんじゃないかと思う。
 b. たぶん雨が降っているんじゃないか?/たぶん外は寒いんじゃないか?
 c. ?雨が降っていないかと思う。/?外は寒くないかと思う。
 d. ?たぶん雨が降っていないか?/?たぶん外は寒くないか? 宮崎(2004:6)

これらの1点目と2点目は安達(1996)でも述べられていた基準であり、宮崎(2004)の主張は、これら制約に名詞に「ないか」が接続する場合にはあてはまらないことと、3点目の話し手の想定と現実状況とのギャップという特徴である。否定疑問文は話し手の想定と現実世界の違いがないと使用できないというのが、明らかにされた特徴である。例えば以下の場合(12)aとbの「雨が降る」という認識に差はないが「降る+ないか」は使用できず、「降る+ではないか」は使用できることを示している。

- (13)¹ a. 「明日は雨だろうね」
 b. 「ああ、午後からかなり *降らないか/降るんじゃないか ?」

否定疑問形式は、話し手の想定と現実状況との間にギャップがあることを前提として使用されるのである。一方(13)では、相手はすでに雨が降ることを予想しており、話し手の想定との間にギャップをきたすような状況は存在しない。こうした場合には、否定疑問形式は使用できない。(宮崎 2004:9)

形容詞に接続した場合も(13)(14)の「ないか」の場合はギャップがなければ不自然であることが確認できる。

- (14) a. 「今からテニスをしないか ?」
 b. 「今日はちょっと寒くないか ?」
 (15) a. 「明日は冷え込みそうだね」
 b. 「* ああ、相当寒くないか ?」

それに対して(15)(16)の「ではないか」の場合はその制約をもたない。

- (16) a. 「明日、テニスをしないか ?」
 b. 「明日は雨じゃないか ?」
 (17) a. 「明日は雨だろうね」
 b. 「ああ、午後から雨じゃないか ?」 (宮崎 2004:11)

以上のように、第二類否定疑問文に関して様々な特徴が論じられてきたが、議論の対象となったのは「ないか」「ではないか」「のではないか」である。本論文では「Vはしないか」について宮崎(2004)の3つの基準をもとに分析し、情報提供文として働く否定疑問文であることを明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

本調査は現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)と青空文庫(最終閲覧 R6.5.1)の用例をもとに分析を行う。BCCWJでは動詞連用形+助詞「は」+補助動詞「する」の連用形「し」の形で検索をおこない、後続に否定辞が続くものを対象とした。青空文庫ではトップページ(<https://www.aozora.gr.jp/>)のgoogle検索窓により以下の連用形の送り仮名の形「いはしない」「しはしない」などを網羅的に手動で検索し対象とした。今回分析を行った用例は100例である。

4. 実際の用例における「傾き」の有無

まず安達(1996)の「傾き」に着目し、「Vはしないか」にも「傾き」が存在することを確認していきたい。「ないか」には「傾き」がない場合も「のではないか」は「傾き」を持つとされたが、同様に「Vはしないか」にも「傾き」があることを明らかにする。具体的には先行研究で触れら

¹ 例文番号は筆者による変更。

れた「傾き」の有無により適格性が揺れる例文に対して「Vはしないか」を当てはめた場合を検討する。

まず安達(1996)において「傾き」のない否定とされた例について違いを検討していきたい。

(7) だが水口はさやかを無視するかのよう、るり子のそばに寄ってきた。

「どう?わからないこと、ない?」

「あ.....ありません」

(7)' どう、わからないこと、ありはしない?

(7)の例は話し手にわからないという見込みがなく、「傾き」がないとされていた例であるが「ありはしない」に変わると、話者による判断が観察できるように感じられる。他に「傾き」ないとされた疑問詞を含む(6)の例でも「知らない」に不適格になることがわかる。

(8) 森沢 「栗田さん!」

栗田 「あら、森沢さん」

森沢 「お願いがあるの。餃子に詳しい人を誰か知らないかしら?」

栗田 「餃子のこと詳しい人?」 (安達 1996:25)

(8)' 森沢 「お願いがあるの。餃子に詳しい人を誰か*知りはしないかしら?」

「傾き」の有無を分析している研究には西鶴(2013)のなどもある。例えば次の文について、通常の否定疑問文「誰かいないか」は自然であるが「のではないか」は不適格であるということが指摘している。

(18) 「ナイカ」「ノデハナイカ」の傾きの違いや、質問内容の違いは、次のような意味合いの違いを生じさせる。

A² (遭難中に真っ暗な山小屋を見つけ、中に向かって)

誰かいないか?/*誰かいるんじゃないか?

Aは「ナイカ」の場合は「誰かいる」ことについての判断がついておらず、「いる」か「いない」かを問いかけているのに対し「ノデハナイカ」の場合はすでに「誰かいる」という判断がついており、中に向かってその判断の妥当性を問いかけているため不自然であると感じられる。(西鶴:2013:29)

こちらでも「ないか」は傾きが無いが、「のではないか」は傾きをもつため山小屋の中に対して何の情報もない場合、「のではないか」を使用することはできないとしている。これを「Vはしない」で確認した場合、山小屋について何かしらの情報があるように受け取ることができる。

(18)' (遭難中に真っ暗な山小屋を見つけ、中に向かって)

誰かいないか?/*誰かいはしないか?/*誰かいるんじゃないか?

「傾き」の有無を検討した例文で、「ないか」と「Vはしないか」で適格性に差が生まれるのは、やはり「Vはしないか」に「傾き」が含まれるためだと思われる。「傾き」あるということは、情報提供文としての性質も高まるということでもある。そのため次節では宮崎(2004)の情報提供文の性質が「Vはしないか」にも存在するということを確認していく。

4.2. 「Vはしないか」の情報提供文としての性質

この節では宮崎(2004)で「のではないか」が情報提供文の性質を持つ場合があると明らかにした実験と同様の基準にしたがい、「Vはしないか」について検討したい。先行研究でも述べたように宮崎(2004)では1,思考動詞引用文中の生起と2,モダリティの副詞(タブン)との共起の可否、3,話し手の想定と現実状況とのギャップの3つの観点から分析を行った。

まず1点について思考動詞は「Vはしないか」は思考動詞との共起が可能である。先行研究の例と比較した場合、「Vないか」より容認度が上がる。

² 例文番号は筆者による変更。

- (12) a. 雨が降っているんじゃないかと思う。/外は寒いんじゃないかと思う。
 c. ?雨が降っていないかと思う。/?外は寒くないかと思う。
 (12)' 雨が降ってはいはしないかと思う/外は寒くはないかと思う

実際の用例でも「Vはしないか」は独話、心内発話としての使用例が多く、聞き手を必要としない発話がよく見られる。そのことは「Vはしないか」がただ他者からの情報を要求する文ではないことも示している。今回の調査結果では「～と思う」「～と考える」などと共起するのが 100 件中 13 件であった。「と思う」の用例が一番多く、以下のような例が観察される。

- (19) 「いつか見た小間使の外にどんな奉公人がいるか知らないが、もう日が暮れているのだから、知らない顔のものが出て来はしないかと思った。」「青年」森鷗外
 (20) 慥られはしないかと思いながら跡を逐おうて呼んでみたが、彼は素直に私の招きに従ってくれた……「流転」山下利三郎

その他には「～と恐れる」「～と案ずる」などマイナスの事態を予想する動詞はあったが、「～期待する」などプラスの動詞は見られなかった。

- (21) 「ドゥーリーか誰かが、いまの大声の主を捜してはいはしないかと恐れたが、窓には誰もおらず、事務所のあかりは消えたままだった。」「消えた娘」クレイ・レイノルズ(著)/土屋 政雄(訳)
 (22) 『相変らずの偽善者より』といふ言葉の中にはつきりとそれがあらはれてゐる。つまり救けてやつた人に恩を着せてゐる。そこからいろいろなことが起つて来はしないかと案じられる。」「三月の創作」田山録弥

次に 2 点目の「たぶん」「おそらく」などとの生起について観察したい。「Vはしない」は「ひょっとすると」、「もしかすると」との共起が確認された。そして特徴的なのが両方とも「と思う」も共に用いられているという点である。

- (23) もしかしたら、上田に人が戻ってはいはしまいかと思っていた」「十年目の訪問者」秋山ちえ子
 (24) 「ひょっとすると、もう一度革命がありはしないかとおもわれる位でした」「夢の日だまり」川本三郎

「Vはしないか」が思考動詞と共起可能なことに伴い、推論などを示す語彙に対しても容認度が上がっているのではないと思われる。数としては 100 例中に 2 例であるが、「ないか」との違いを示す結果の一つであろう。

最後は 3 点目の情報のギャップについてである。「Vはしないか」もこの点に関しては「話者の想定と現実の状況とのギャップ」は必要であるという結論となった。

- (14) a. 「今からテニスをしないか？」
 b. 「今日はちょっと寒くないか/寒くはないか?」
 (15) a. 「明日は冷え込みそうだね」
 b. 「* ああ、朝は相当寒くないか/寒くはないか?」

(14)では a が気温が寒いという状況を考慮しておらず、b のテニスをするには寒いと言う状況に差異がある。しかし(15)では a が冷え込みそうだと発言しており、b の寒いという想定と重なる。そのため(14)ではギャップが無く、「Vないか」、「Vはしないか」共に不適格となる。動詞・形容詞どちらに接続する場合も同様の結果が観察できる。

- (25) a. 「明日は雨だろうね」
 b. 「ああ、午後からかなり*降らないか/*降りはないか/降るんじゃないか?」

ここで注目したい点が2点ある。1点目が「ないか」がギャップを必要とするのは第二類否定疑問文の場合であるという点である。「Vはしないか」にギャップがあると言うことは、普通の否定疑問文とは違う特徴を「Vはしないか」も持っているということを示す。2点目はギャップの必要度合いが「Vないか」と「Vはないか」では異なるという点である。「Vはないか」は「Vないか」よりギャップに関して強い制約が感じられる。これも先行研究の用例から観察していきたい。

(26) 大介 「佳織、まだ来ないのかな」
進一 「さあ、もうそろそろ ??来ない/来るんじゃないか?」 (宮崎 2004:8)

たしかに「来ない」は不自然であるが、この話者の想定と現実にはギャップがない状況では「Vはしないか」の平叙文「来はしない」は容認度がより下がる。

(26)' 進一 「さあ、もうそろそろ ??来ない/*来はしない/来るんじゃない」?

(26)も否定疑問文が来ることが不適格なのは、想定とのギャップがないためであるとする。

(27) (26)³では、佳織がそろそろ来るかもしれないという想定を否定するような状況は、常に存在していない。あえてギャップが生じるように文脈を作り変えれば、否定疑問形式が使用可能になる。(宮崎 2004:9)

ここで考えられるのが「Vはしないか」「Vはしない」は「Vないか」よりも想定とのギャップを必要とするのではないかということである。山倉(2023)において、「Vはしない」は「Vないか」という想定がある文脈で用いられるということを示した。想定とのギャップというのは、元々英語の否定疑問文に存在する性質であることが宮崎(2004)では述べられている。「Vはしない」は平叙文であるにもかかわらず、同様の性質をもつことが考えられる。判断の「傾き」が存在するというのが「Vはしない」と「Vはしないか」に共通する性質なのではないだろうか。

5. おわりに

以上、田野村(1988)安達(1996)宮崎(2004)の否定疑問文の分類に従い、「Vはしないか」が動詞・形容詞に接続する「傾き」をもつ第二類否定疑問文であることを述べた。まとめると以下のような図になる。

	否定疑問形式	ハシナイカ	ノデハナイカ
動詞述語	降っていないか (×)	降りはないか (○)	降っているのではないか (○)
形容詞述語	寒くないか (×)	寒くはないか (○)	寒いのではないか (○)
名詞述語	雨ではないか (○)		雨なのではないか (○)

○…思考動詞の引用文中の生起や「たぶん」との共起が可能

×…思考動詞の引用文中の生起や「たぶん」との共起が可能

*ノデハナイカは現実と話者の想定とのギャップが不要

表2 シハシナイカを含む第二類否定疑問形式の分類

このような図に表すと「動詞・形容詞+ない」が情報提供文としての性質が低いのにに対し、「Vはしない」は動詞と形容詞にのみ接続することが可能であることがわかる。ちょうど第二類で情報提供文としての性質が薄いとされた、形式を補完するものなのではないだろうか。そして「のではないか」との差異として現実と話者の想定とのギャップが必要であるという点もあげられる。「Vはしないか」は単純に命題を否定する疑問文なのではないことが明らかになった。

今回は否定疑問文を軸としたため「Vはしないか」と「Vはしない」との関係は話題に触れるにとどまったが、今後「傾き」という概念を中心に両者の分析を試みたいと思う。

³ 例文番号は筆者による変更。

参照文献

- 青木伶子 (1992) 『現代語助詞「は」の構文論的研究』. 笠間書院.
- 安達太郎 (1996) 「日本語疑問文における判断の諸相」 (平成七年度博士論文(課程)). 『大阪大學文學部紀要』 37, pp.31-32.
- 田野村忠温 (1988) 「否定疑問文小考」『国語学』 158.
- 野田晴美 (1995) 「「～ハ～ナイ」「～シハシナイ」「～ノデハナイ」「～ワケデハナイ」一ハとナイを含む否定の形一」『日本語類義表現の文法 (上)』. くろしお出版.
- 宮崎和人 (2004) 「否定疑問形式の種類について」『岡山大学言語学論叢』 11, pp.1-15. .岡山大学.
- 山倉佐恵子 (2023) 「期待値からみた取り立て助詞：複合表現シハシナイの特徴をめぐって」『言語文化共同研究プロジェクト』 2022, pp.105-114